



日本糖尿病協会公認  
マスコットキャラクター  
「マールくん」

公益社団法人 日本糖尿病協会  
**REPORT 2015**  
～あなたが主役です～

## CONTENTS

TOP MESSAGE	1
日本糖尿病協会の活動について	2
日本糖尿病協会ならではの特長	3
[特集1] 小児糖尿病患者児を支えるサマーキャンプ	4
[特集2] 働き盛りへの取り組み	6
[特集3] 高齢糖尿病患者さんへのケア	7
[特集4] 2015年 世界糖尿病デー	8
活動報告	10
日本糖尿病協会と連携する諸団体	16
日本全国に広がるネットワーク	18
日本糖尿病協会の会員	20
2016年度 日本糖尿病協会賞受賞者	22
最新 NEWS	23

## TOP MESSAGE



国民病と言われて久しい糖尿病。先般、糖尿病性腎症の重症化予防に向けた取り組みの促進を国レベルで支援することを目的に、厚生労働省、日本医師会、日本糖尿病対策推進会議の三者において、「糖尿病性腎症重症化予防に係る連携協定」が締結されました。増え続ける糖尿病患者とその重症化の抑制は、官民挙げての急務となっています。

日本糖尿病協会は、1961年設立の公益社団法人として、国内外での糖尿病予防および患者さんへの療養支援に貢献する団体です。このたび、私たちの1年間の活動を広く皆さまにお知らせし、さらなるご理解とお力添えを賜りたく、年次報告書を作成いたしました。

糖尿病は、非常に幅が広い疾患です。子どもからお年寄りまで、あらゆる世代で発症する可能性があり、その対策は医療面のみならず、教育、社会、福祉等、様々な視座が必要です。また、発症後の療養は長期に亘るため、患者さんが自らの疾患を正しく理解し、ご自分の意思で治療に向かう動機付けの療養指導も非常に重要です。

こうしたニーズに対し、日本糖尿病協会は、2015年度は「小児1型糖尿病の啓発と教育」「働き盛りの就労と治療の両立」「高齢者の医療と福祉の連携」に重点を置き、様々な施策を実施いたしました。また、質の高い医療を提供することが患者さんの利益につながるという観点から、糖尿病療養指導に携わる医療者のスキルアップに役立つ教育資材の作成とその普及にも注力いたしました。

2016年度も引き続き、患者さんとそれを支える医療者の声に耳を傾け、各世代に適したきめ細かい糖尿病対策を実施するとともに、糖尿病の正しい知識を啓発することで、日本国内はもとより、アジア地域まで視野にいたした糖尿病発症の抑制に全力を尽くして参ります。日本糖尿病協会の今後の事業展開にご期待いただき、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年4月  
公益社団法人 日本糖尿病協会 理事長

**清野 裕**

関西電力病院 総長  
関西電力医学研究所 所長  
京都大学名誉教授  
アジア糖尿病学会理事長  
日本病態栄養学会理事長

# 日本糖尿病協会の活動について

日本糖尿病協会のステークホルダーは、患者さんはもとより、患者さんを支援する医療者、自治体、企業、市民など多岐に渡ります。そうした方々に向けて、以下の4つの目標を持って活動しています。



# 日本糖尿病協会ならではの特長

日本糖尿病協会は、患者さんと医療者、それに企業や健康に関心の高い市民が連携して、糖尿病撲滅を目指す団体です。医療スタッフも医師・歯科医師をはじめ、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など幅広い職種が参加し、患者さんに良質な医療を提供するための取組みを行なっています。また患者さんやそのご家族が暮らす地域や職場にも呼びかけ、糖尿病の正しい知識と予防に関する啓発を実施しています。



## 日本糖尿病協会が発行する「療養グッズ」

日本糖尿病協会では、糖尿病関連企業の協賛により下記の療養グッズを発行。医療施設などを通じて無料で配布しています。



糖尿病連携手帳

検査値や治療内容、合併症の検査所見などを記録して携帯できる、自己管理のための手帳です。



自己管理ノート

血糖測定結果を1冊で1年分記録できるノート。複写式なので複写部分を主治医に渡すことができ便利です。



糖尿病患者用IDカード  
(緊急連絡用カード)

低血糖や交通事故などの緊急時に、周囲に糖尿病であることを知らせ、適切な処置を促します。とくに薬物療法をされている方は、常に身につけていただきたいカードです。



英文カード

海外旅行などで役立つ英文カード。表紙には糖尿病患者であることが5か国語で書かれ、中面には治療内容や合併症の状況などが英語で記入できます。



## 小児糖尿病患児を支えるサマーキャンプ

1型糖尿病の子ども達は、生涯にわたりインスリン注射が必要です。幼稚園や小学校、中学校、高校、そして大学、社会へと人生が広がっていくなかで、1型糖尿病とどうやってうまくつきあっていくか…。子ども達を支援するために糖尿病サマーキャンプを実施しています。

### 糖尿病サマーキャンプで成長する子ども達

糖尿病サマーキャンプには、同じ1型糖尿病を持つ仲間がやってきます。医療スタッフや成長した1型糖尿病のお兄さんやお姉さんがいろいろ教えてくれます。食事や運動、低血糖対策など、自分でやっていくスキルを体験の中で学びます。そして何よりも、参加することで「糖尿病をもって生きること」を受け入れ、成長していきます。



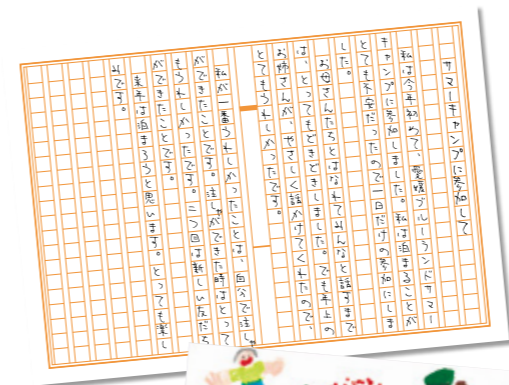
我が国の糖尿病サマーキャンプは、1型糖尿病と診断された子ども達の教育と生活指導のために、1963年に丸山博先生によってはじめられ50年を超える歴史を重ねています。現在、日本糖尿

病協会の主催で全国50か所で開催され、毎年約1200人の子ども達が参加し、約4500人の医師や、看護師、栄養士などの医療スタッフ、学生ボランティア、キャンプOB/OGらによって運営されています。



### 糖尿病サマーキャンプの内容と意義

全国各地のキャンプには、それぞれの歴史や地域の特色があり、ひと夏の間、いろいろな地域で開催されます。各キャンプは、安全であること、教育的であること、楽しいこと、チャレンジできること、地域や社会との交流の場であること、という目的があり、さまざま



特別な夏の  
楽しい思い出が  
いっぱい!



column



### 「世代を超えたつながりを」 ～インスリンメンター制度

日本糖尿病協会では、キャンプ経験者である20～40歳代の若手患者をメンターとして育成し、各地のキャンプで後輩たちをサポートする「インスリンメンター制度」を創設。2015年は1期生として10人を認定し、4人が5か所のキャンプに参加しました。

メンターは自身が乗り越えてきた道を語り、キャンパーの悩みをじっくりと聴いたり大活躍で、この取り組みは各地の新聞でも取り上げられました。

な計画で実施されています。またキャンプはご家族の皆さんにとっても学びの場でもあり、休息の時でもあります。

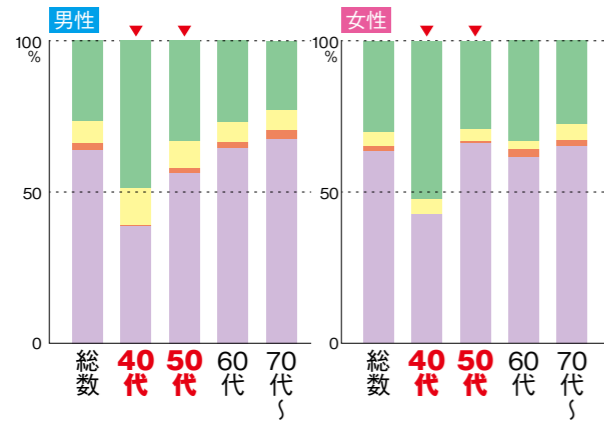
日本糖尿病協会はキャンプ参加者を対象に調査\*を実施。これによるとキャンプは「注射や血糖測定の手技が学べる」「食事や補食について学べる」「同じ病気を持つ仲間と交流できる」「病気に立ち向かう自信が持てる」など、主に医療教育と自己効力感の面で高い評価を得ています。

(※) 日本糖尿病協会調査研究報告書：小児糖尿病生活指導講習会(サマーキャンプ)の成果に関する調査報告書、2010年11月

D A T A

糖尿病が強く疑われる人の年代別治療状況

働き盛り世代への受診勧奨・治療中断の防止が急務です。



出典：2012年国民健康・栄養調査結果(厚生労働省)



▲2014年の世界糖尿病デーの際、読売新聞で展開した全面広告。「糖尿病と就労支援」がテーマで、働き盛りの糖尿病は社会的にも大きな関心事です。就労者支援委員会はこのタイムリーなテーマを扱う委員会として活動が目注されています。

## 働き盛りへの取り組み

日本糖尿病協会では就労者支援事業として、働く世代へ啓発を行い、発症予防や合併症阻止を目指すだけでなく、企業など事業者へ働きかけることで、治療と就労の両立ができる環境づくりを目指しています。

### 就労者支援委員会を新設してアプローチ

昨今、働き盛り世代の糖尿病患者さんの治療中断や、健診などで血糖値の異常が指摘されても医療機関を受診しない未受療者の増加が問題になっています。こうした問題を解決するために、日本糖尿病協会は、2014年に就労者支援委員会を新設しました。

委員会は、労災病院や産業医科大学の医師、就労者の療養指導にあたる看護師や管理栄養士で構成されています。

糖尿病患者さんと就労を考える場合、企業・患者・産業医の3つの方向に働きかける必要があります。また企業規模によっても抱える問題に違いがあるため、様々な観点からのアプローチが必要です。

### 糖尿病のイメージを刷新する啓発活動

企業の糖尿病に対する関心のなさをどのように変えていくか、糖尿病が就労に与える負のイメージをどう払しょくするかなどを検討した結果、健康保険組合のレセプトデータを活用した治療中断者に対する支援プログラム(産業医科大学との共同研究)、eラーニングによる産業医向け糖尿病教育、中小企業向け「出張糖尿病教室」、社会、特に若年層における糖尿病のイメージアップのためのLINEスタンプやキャラクター制作の4つの事業を企画・実施しています。また、労働者健康福祉機構との共催による啓発活動として、勤労者医療フォーラム「第3回就労と糖尿病治療の両立」を2016年2月14日に開催しました。



▲毎日新聞 2016年1月14日(木) 朝刊掲載記事「要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会」が全国紙でとりあげられました。



群馬県高崎市での勉強会には91人が参加しました。



ケアマネジャーもインスリン注射を体験します。

## 高齢糖尿病患者さんへのケア

4人に1人が後期高齢者(75歳以上)という超高齢社会を10年後に迎える日本。糖尿病があっても安心して老後を過ごせるように、日本糖尿病協会では、2012年からケアマネジャーを会員に持つ日本介護支援専門員協会とともに、医療と介護の連携強化に取り組んでいます。

### 医療と介護をつなぐ勉強会を開催

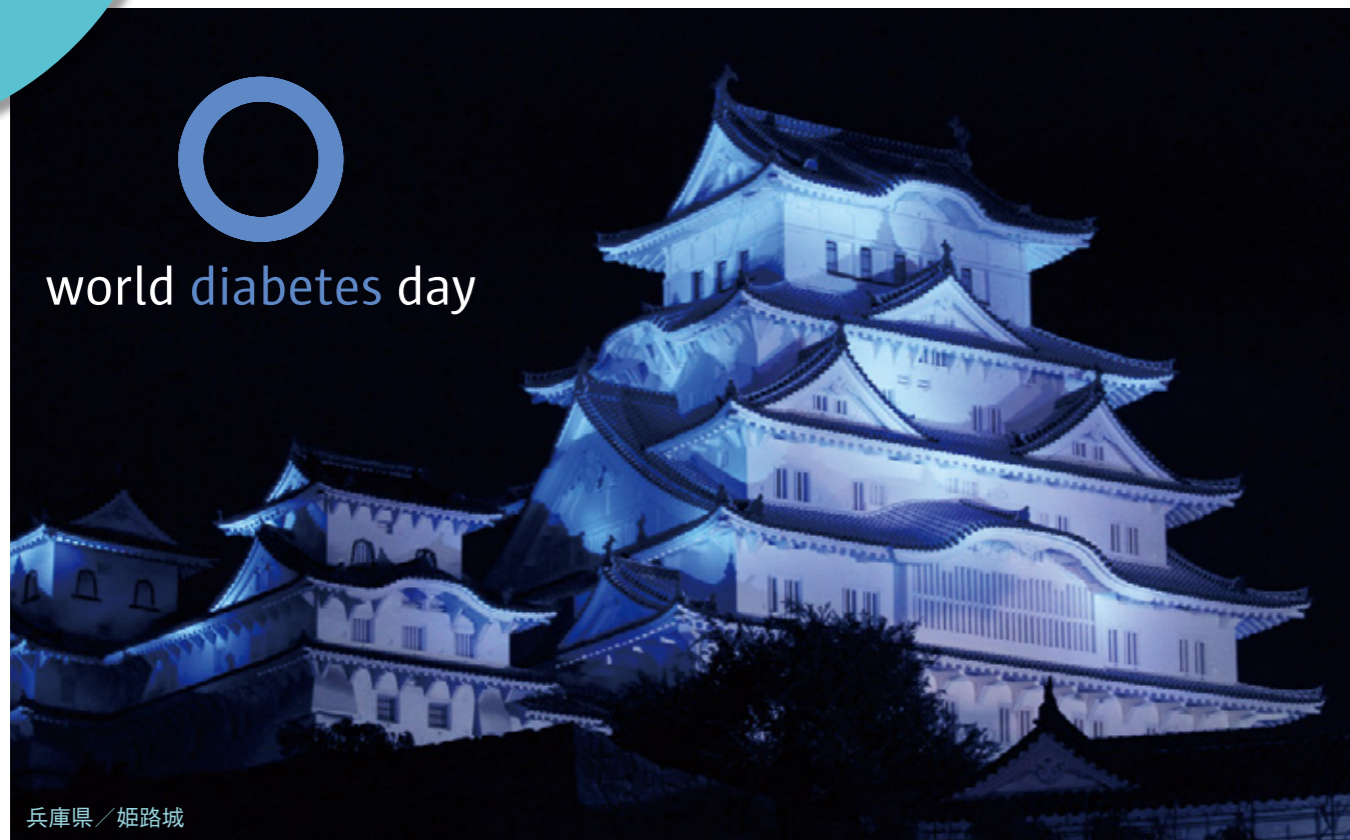
日本糖尿病協会と日本介護支援専門員協会が立ち上げた合同委員会では、「要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会」の開催や「ケアマネジャー向け糖尿病テキスト」の制作などにあたっています。

勉強会は、在宅診療を行う医師とケアマネジャーがお互いに顔が見える関係を作り、情報交換しやすい環境を作ることと、医療側・介護側双方が抱える問題点を把握して、解決策を練ることが目的です。勉強会の開催を通じて、医師とケアマネジャーの連携を促進し、患者さんの生活の質向上をめざします。2016年度は、この勉強会の全国での開催を目標としています。



### テキストでケアマネジャーの理解を促進

要介護の糖尿病患者さんを担当するケアマネジャーが、どのような点に気をつけてケアプランを立てる必要があるのかを効率よく学べる材料を提供するテキストを作成します。糖尿病の医療的な基礎知識を日糖協が、ケアプラン作成のポイントを介護支援専門員協会が執筆します。2016年度からケアマネジャーの教育カリキュラムが変更になり、疾患別の事例検討が重視される点に配慮し、糖尿病について学ぶ機会が増えるケアマネジャーに役立つテキストを目指しています。



world diabetes day

兵庫県／姫路城

## 2015年 世界糖尿病デー

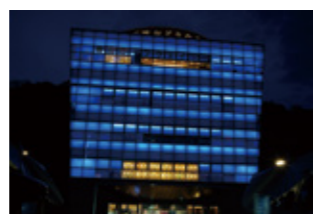
11月14日は「世界糖尿病デー」です。2015年は全国189か所で「ブルーライトアップ」と啓発活動が行われました。またブルーライトアップ以外でも盛りだくさんな内容でPRを実施し、この日が広く知られるよう啓発に努めました。



京都府／東寺・五重塔



奈良県／薬師寺



徳島県／阿波おどり会館



北海道／札幌市時計台



長崎県／眼鏡橋



群馬県／草津温泉・湯畑



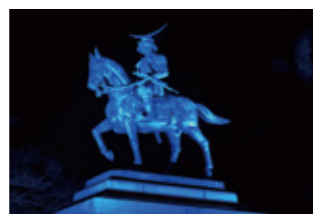
山口県／海峡ゆめタワー



香川県／琴弾公園



青森県／青森県観光物産館アスパム



宮城県／伊達政宗公騎馬像

2006年12月20日、国際連合(国連)は、IDF(国際糖尿病連合：現在 約170か国230団体が加盟)が要請してきた「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を総会決議で採択。同時にIDFとWHO(世界保健機関)が定めていた「世界糖尿病デー(11月14日)」を国連の日として公式に認定し、糖尿病の啓発活動を推進することを呼びかけました。この決定を受けて、我が国でも、日本糖尿病協会と日本糖尿病学会が「世界糖尿病デー実行委員会」を設立。各地の著名な建造物を糖尿病撲滅のためのシンボルカラーの「ブルー」にライトアップする活動を推進しています。2015年は、189か所でライトアップと啓発活動を行いました。

WDD

### 読売新聞記事広告とPR号外

11月14日朝刊を使って、「ライフステージで糖尿病を考える」と題し、小児から若者世代、働き盛り世代、高齢世代の3つの時期に特有な糖尿病の問題について、専門家の先生方に解説していただきました。

また、この紙面をPR号外として約3万部を全国の世界糖尿病デーイベントの際に配布しました。



WDD

### プロバスケットチームとの連携

京都に本拠を置くプロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」と京都府糖尿病協会がタイアップして、「世界糖尿病デー啓発マッチ」と題する試合とイベントを行いました。チャリティT



シャツを着ての記念撮影、啓発ツールの配布などを通じて、約1,700人の観戦者に糖尿病予防の大切さをアピールすることができました。

WDD

### 大阪環状線車両ラッピング

大正富山医薬品株式会社のご協力のもと、11月3日から15日まで、大阪市内を走るJR西日本大阪環状線の車両に世界糖尿病デーの公式ポスターを掲示しました。この車両は、1日平均15周、多い日は20周も走行。昨年に続き、清野裕理事長も電車とともに糖尿病デーをPRしました。



WDD

### 繁華街の街頭ビジョンでの映像放映

各地の繁華街にある街頭ビジョンを活用して、糖尿病の脅威を訴求しました。ベートーベンの交響曲第5番「運命」の重厚なイントロメロディーとともに流れた15秒間の映像は、インパクト大でした。





# 活動報告 写真で見る、2015年度の活動

日本糖尿病協会では、「普及啓発」「療養支援」「調査研究」「国際交流」の4つの目標を中心に、2015年度もさまざまな事業を展開いたしました。実施

した事業の詳細については、次ページ以降でご報告しています。



## 1 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

- 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行  
協会誌として12冊を発行。親しみやすい内容で正しい知識を伝えた。
- 1-2 糖尿病関連書籍の発行  
「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行。
- 1-3 全国糖尿病週間の実施（11月9日～15日）  
日本糖尿病学会と共催して実施（後援：厚生労働省、日本医師会、日本放送協会、日本糖尿病財団、日本歯科医師会）。「ライフステージにあわせた糖尿病治療」テーマに、各都道府県糖尿病協会を中心に糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施、約70,000名もの参加者があった。
- 1-4 糖尿病シンポジウム等のイベントの実施
  - 糖尿病シンポジウムを東京（11月14日）・愛知（2016年3月13日）で開催し、延べ600名以上の来場者を迎えた。
  - 糖尿病予防キャンペーンを日本糖尿病財団との共催で徳島（11月29日）にて開催、延べ400名が来場した。
- 1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施  
第9回「世界糖尿病デー」（11月14日）のイベントとして、都道府県糖尿病協会を中心に国内189か所でブルーにライトアップ（世界約1,000か所でも実施）。また各地で街頭イベント（血糖測定・ウォーキング）・講演会等も実施した。
- 1-6 Team Diabetes Japan  
国内外5か所のマラソン大会に参加し、糖尿病の予防や治療についての啓発を行った。マラソン参加者等にチャリティTシャツとキャップを販売、収益を日本糖尿病協会に寄付した。

- 1-7 HbA1c 認知向上運動の実施  
企業委員・サノフィ(株)との共催で「ヘモグロビン・エー・ワン・シー認知向上運動」を千葉県(12月6日)で開催。市民など合計約600人が参加した。
- 1-8 ウォークラリーの実施  
企業委員・ノボノルディスクファーマ(株)との共催で、全国43か所で開催、約6,000人が参加した。
- 1-9 療養指導者向け雑誌「DM Ensemble」の発行  
糖尿病療養指導者(主に日糖協登録医、歯科医師登録医、コメディカルスタッフ)を対象とした「DM Ensemble」を年4冊(季刊)発行。また増刊号として第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会を特集し、11月に定期購読者に配布した。
- 1-10 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開  
日糖協登録医が1,509名、療養指導医2,547名(登録医からの昇格者586名)。日糖協歯科医師登録医の登録数3,533名に。
- 1-11 日糖協CDEネットワークの構築  
全国のCDEL組織の活動支援として、先行する地区の組織運営に関する情報や認定の試験問題を収集し、新規に設立する団体への提供。また組織運営支援として25団体に助成を行った。活動発表や情報交換の場を設け、団体間の交流を促進した。
- 1-12 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した療養指導の普及  
体験編と実践編に分けたトレーニングを11か所(大阪2回・京都・名古屋・東京2回、札幌、福岡、出雲、佐賀、秋田)で開催、397人が出席した。
- 1-13 新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの新普及  
糖尿病シンポジウムなどのイベント時にデモンストラーションを実施、約500名の参加者が体験した。
- 1-14 日糖協療養指導学術集会の開催  
第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会(京都/7月25・26日)を開催、1,162名の参加を得た。スモ-

ルグループディスカッションのほか、教育講演6本、Meet the Expert 6本、療養指導資材を紹介するモーニングセミナー、患者さんが登壇するイブニングセミナーなどを実施。

- 1-15 地域での医療従事者対象啓発活動の支援  
登録医・療養指導医・歯科医師登録医・CDEを対象とした資格更新対象講習会の認定・後援等。医療従事者対象の薬剤の適正使用啓発活動を支援。

- 1-16 チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテストの開催  
栄養を学ぶ学生を対象にレシピコンテストを実施(募集期間:6月1日～7月31日 二次審査・表彰式:10月4日)。全国から64校223件(前年比+104件)の応募があり、5作品を表彰。レシピブックを編集して会員に配布した。



◀レシピコンテスト

- 1-17 健康配慮型弁当の監修  
合同会社西友と連携してカロリーや栄養バランスを考慮した弁当を監修。11月6日～30日、全国の西友341店で販売した。
- 1-18 勤労者医療フォーラムの共催  
勤労者医療フォーラム「第3回就労と糖尿病治療の両立」を労働者健康福祉機構と共催。
- 1-19 糖尿病療養指導カードシステムの制作・普及  
新療養指導資材「糖尿病療養指導カードシステム」を開発し、第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会で発表。普及講習会を茨城・福岡で実施した。
- 1-20 糖尿病教育DVDの制作  
「運動療法のすすめ」4巻シリーズを、企業委員・

大正富山医薬品(株)の協力を得て制作。「糖尿病療養指導士 学習支援DVD」第1巻を、企業委員・アステラス製薬(株)の協力を得て制作。

- 1-21 医療者教育 eラーニングの準備  
登録医、療養指導医、産業医等を対象とするeラーニングシステムの構築準備を行った。

## 2 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

- 2-1 調査研究
  - 「インスリンアナログ混合製剤1日2回投与あるいは持続型溶解インスリンアナログ製剤1日1回投与によるインスリン導入の検討」最終解析結果を第58回日本糖尿病学会年次学術集会で口演発表。
  - 「経口糖尿病治療薬（インクレチン関連薬を含む）投与に関する実態調査研究（UNITE Study）」最終解析結果を第58回日本糖尿病学会年次学術集会、Incretin 2015、第19回日本病態栄養学会年次学術集会にて口演発表、アジア糖尿病学会年次学術集会でポスター発表。
  - 「65歳以上の高齢者2型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験（START-J）」最終解析結果を第58回日本糖尿病学会年次学術集会、Incretin 2015にて口演発表、アジア糖尿病学会年次学術集会でポスター発表。
  - 「インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討-前向き観察研究-(I-UNITE Study)」188施設から症例登録され、1,753症例についてデータ収集を継続。
  - 「トホグリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究-(AYUMI)」症例登録を2017年5月まで継続中。



2-2 よりよい医療の提供に向けた、血糖値をはじめとする糖尿病患者のデータの集積・解析 (EDDP: Electronic Diabetes Data Project) 事業化に向けた体制の検討を行った。

2-3 糖尿病に関する基礎的・臨床的な研究を行う若手研究者に対する助成  
申請課題より10題を採択し、助成を行った。

### 3 糖尿病の患者及び家族に対する療養指導事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援  
全国の都道府県糖尿病協会を通じて支援を実施。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行



製菓・医療機器企業等の協力を得て、糖尿病連携手帳(改訂第3版)、自己管理ノート、IDカード、英文カードなど療養に役立つグッズを制作し頒布した。

3-3 1型糖尿病対策

- 小児糖尿病サマーキャンプの支援  
全国50か所で、TOOTH FAIRY プロジェクト(日本歯科医師会と日本財団)の助成金を受け開催した。キャンプには1,222人の1型糖尿病患者と5,036人の医療者を中心とするボランティアスタッフが参加した。
- 1型糖尿病に加え他の障害も持つ患児の実態把握と支援策を検討する目的で、全国の特別支援学校にアンケート調査を実施。

3-4 小児2型糖尿病対策事業  
小児2型糖尿病および肥満の患児の教育事業の展開を検討。

3-5 インスリンケアサポート事業  
「インスリンメンター制度」を立ち上げ10人のインスリンメンターを養成。4人のメンターが宮城、新潟、徳島、愛媛、佐賀のサマーキャンプに参加して患児や家族を支援した。

### 4 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF/IDF-WPR  
●IDF Congress 2015(カナダ・バンクーバー/11月29日~12月4日開催)に参加。

●IDF-WPR Council Meeting (IDF Congress 期間中に開催)で、IDF-WPR Diabetes Foot Care Project の完了を報告。



4-2 AASD

- AASD Diabetes Foot Care Project/Diabetes Nutrition Assessment Collaboratorsの事務局業務を担当。
- 7th AASD Scientific Meeting(香港/11月21-22日開催)で「START-J」 「UNITE Study」のポスター発表を行った。

4-3 Incretin 2015



▲ Incretin 2015

インクレチン発見 45周年を記念して開催された国際学術集会(カナダ・バンクーバー/7月29~31日)を国際糖尿病基金を活用して助成。

### 5 その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強  
個人の賛助会員(サポーター)の会費を5年間で500円に変更し、サポーター証を制作。約6,000人のサポーターを獲得した。協会案内、入会申込チラシ、「友の会」案内、さかえチラシの制作・配布も行った。

5-2 他団体との連携

- CDEJおよびCDEL組織との連携強化  
日本糖尿病療養指導士認定機構と第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会を共催。各地のCDEL組織25か所に補助金を支出、認定試験問題や規約類の提供などの支援を実施。
- 日本歯科医師会との連携強化  
日本歯科医師会と連携し、歯科医師登録医の登録・更新手続きを促進。TOOTH FAIRYプロジェクトから、18か所の小児糖尿病サマーキャンプへ31人の歯科医師派遣を受けた。
- 日本糖尿病対策推進会議への協力  
医科歯科連携を検討するワーキンググループ会議および総会に出席。厚生労働省と日本糖尿病対策推進会議による「糖尿病性腎症重症化予防に関する連携協定」を締結。
- 日本介護支援専門員協会との連携強化  
要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会を14か所で実施。約630人のケアマネジャーと60人の医師が参加した。ケアマネ

ジャー向けの糖尿病学習テキストの制作を検討。

5-3 災害時危機管理対策  
災害に備えたインスリンの分散保管を啓発する「防災意識啓発ミニチラシ」の配布活動を、福島県、新潟県で準備。

5-4 広報事業  
●プレスリリース(6回)発信  
●ライオンズクラブ335-B地区(大阪・和歌山)のセミナーにおいて啓発と広報活動を実施。

5-5 糖尿病医薬品・医療機器等適正化  
●インスリン製剤区分表示の共通化  
第一段階:各社製品のラベルに「持効」「超速効」の共通文言の記載  
第二段階:共通製剤区分マークを作成  
●廃棄物の処理方法の周知啓発  
●血糖測定機器の保守管理・適正使用啓発  
●抗GAD抗体測定系変更に伴う判定の乖離検証

5-6 表彰事業  
日本糖尿病協会賞(アレテウス賞、パラメデス賞、ウィリアム・カレン賞、功労賞、立川俱子賞)小児糖尿病関連賞(ガリクソン賞、小児糖尿病功労賞)の選考と表彰を行った。

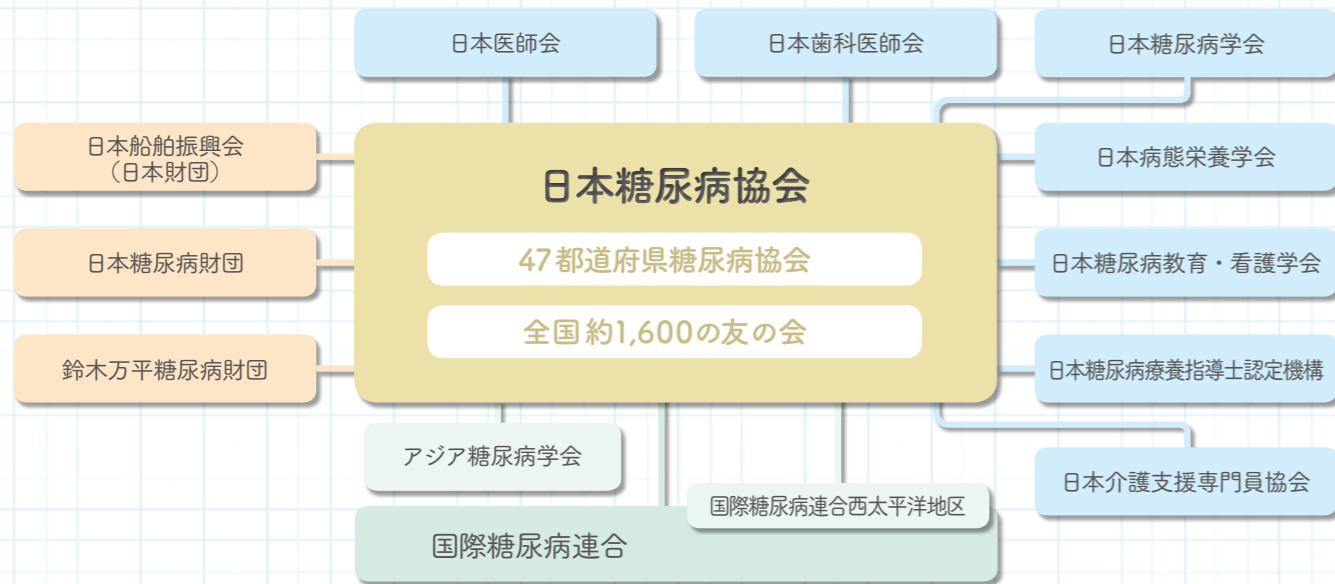
5-7 マスコットキャラクター決定  
日本糖尿病協会マスコットキャラクターを公募、201作品の中から「マールくん」を選出。



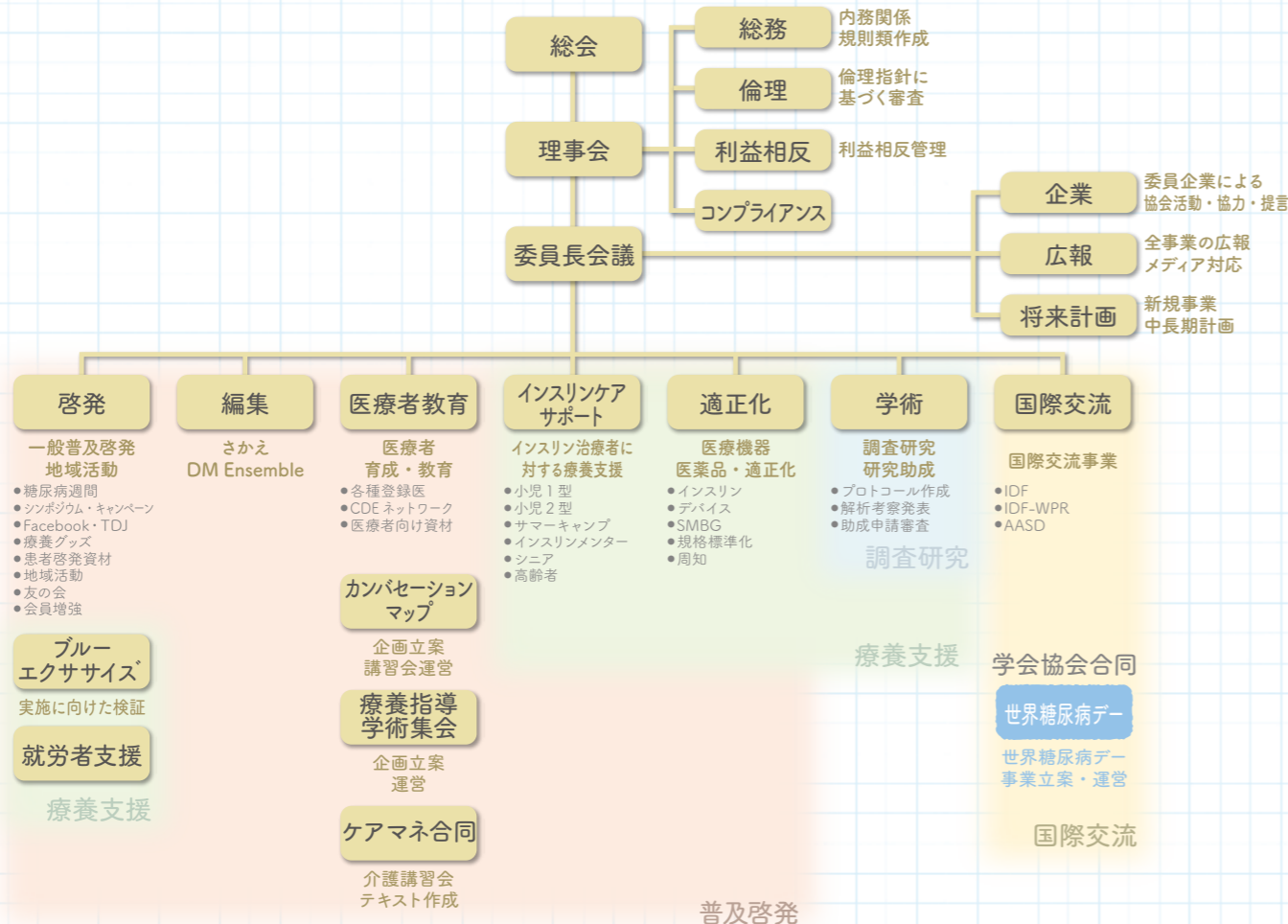
▲マールくん

# 日本糖尿病協会と連携する諸団体

日本糖尿病協会は、47の都道府県糖尿病協会と連携して全国で啓発活動を展開しています。  
また日本糖尿病学会や日本医師会、日本歯科医師会など日本国内の主要な糖尿病関連団体と密接な関わりを持つほか、海外の諸団体とも交流・連携を行い、糖尿病の克服をめざして力を注いでいます。



## 日本糖尿病協会組織図



## 2015(平成27)年度 役員名簿

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
理事長	清野 裕	理事	戸所 文生	理事	古田 恒雄	理事	松原 謙二
業務執行理事	高本 誠介	理事	三村 正裕	理事	内湯 安子	理事	太田 謙司
業務執行理事	鈴木 裕也	理事	八幡 和明	理事	寺内 康夫	理事	荒岡 純孝
業務執行理事	中園 徳斗士	理事	武田 純	理事	伊藤 千賀子	理事	柏木 隆
業務執行理事	安西 慶三	理事	中村 二郎	理事	遅野井 健	理事	渡辺 倫久
業務執行理事	大部 正代	理事	稲垣 暢也	理事	貴田岡 正史	監事	長田 信也
業務執行理事	山田 祐一郎	理事	南條 輝志男	理事	高橋 一征	監事	岩本 安彦
理事	栗原 義夫	理事	武田 倬	理事	堀田 饒		
理事	佐藤 譲	理事	中村 慶子	理事	門脇 孝		
理事	渥美 義仁	理事	布井 清秀	理事	稲垣 美智子		

## 2015(平成27)年度 決算書

正味財産増減計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

科目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
特定資産運用益	97,880
受取会費	161,949,103
事業収益	437,165,525
調査研究収益	199,085,172
受取助成金振替	12,477,940
受取寄付金	37,491,173
雑収益	12,767,623
経常収益計	861,034,416
(2) 経常費用	
管理費	40,326,154
事業費	849,249,428
経常費用計	889,575,582
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 28,541,166
損益評価等計	0
当期経常増減額	△ 28,541,166

科目	当年度
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	
	0
(2) 経常外費用	
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 28,541,166
一般正味財産期首残高	465,809,674
一般正味財産期末残高	437,268,508
II 指定正味財産増減の部	
受取助成金等	15,000,000
受取寄付金	17,408,707
小児糖尿病基金	158,707
地域振興基金引当預金	5,000,000
国際糖尿病基金	12,250,000
調査研究収益	326,185,172
研究運用資金(寄附)	98,971,367
研究運用資金(受託)	227,213,805
一般正味財産への振替額	△ 231,465,411
当期指定正味財産増減額	127,128,468
指定正味財産期首残高	284,113,452
指定正味財産期末残高	411,241,920
III 正味財産期末残高	848,510,428

# 日本全国に広がるネットワーク

## 都道府県糖尿病協会一覧

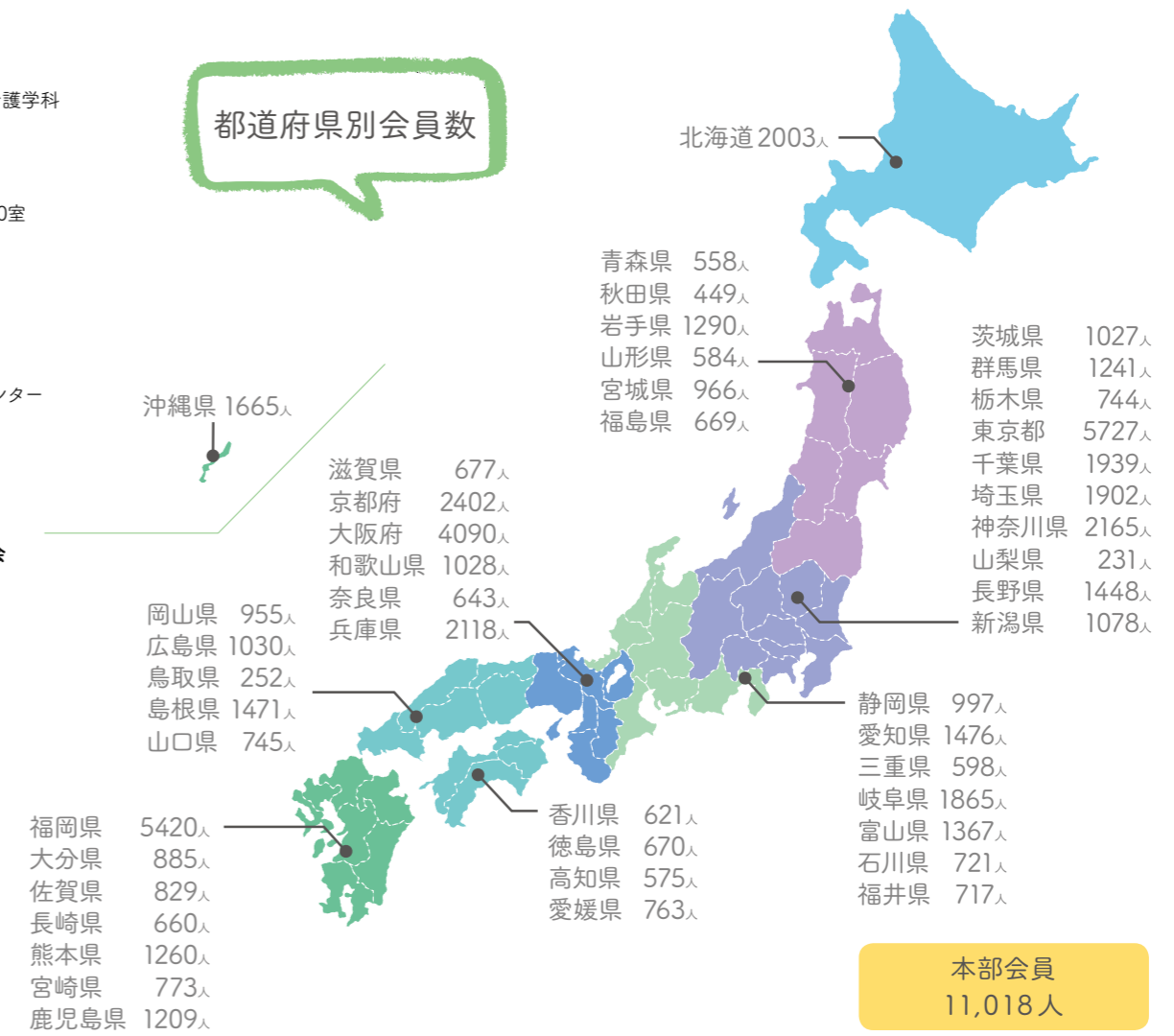
- 北海道**  
北海道糖尿病協会  
☎ 011-892-3522  
栗原内科
- 東北**  
青森県糖尿病協会  
☎ 017-772-7040  
青森市民病院 糖尿病内分泌内科
- 秋田県糖尿病協会  
☎ 018-884-6769  
秋田大学大学院 医学系研究科 内分泌・代謝・老年内科学
- 岩手県糖尿病協会  
☎ 019-662-1622  
西松園内科医院
- 山形県糖尿病協会  
☎ 023-622-7181  
至誠堂総合病院
- 宮城県糖尿病協会  
☎ 022-717-7611  
東北大学加齢医学研究所プロジェクト棟5F 糖尿病代謝科
- 福島県糖尿病協会  
☎ 024-925-1188  
太田西ノ内病院 庶務課
- 関東甲信越**  
茨城県糖尿病協会  
☎ 029-353-2800  
医療法人健清会 那珂記念クリニック
- 群馬県糖尿病協会  
☎ 027-220-7111 (内8121)  
群馬大学医学部附属病院 内分泌糖尿病内科
- 栃木県糖尿病協会  
☎ 0282-87-2150  
獨協医科大学病院 内分泌代謝内科

- 東京都糖尿病協会  
☎ 03-6892-2962  
(月・火・木・金/9時30分~17時)  
東京都糖尿病協会事務局
- 千葉県糖尿病協会  
☎ 043-245-8808  
井上記念病院 栄養課
- 埼玉県糖尿病協会  
☎ 048-681-0526  
(金/10時~13時)  
自治医科大学附属さいたま医療センター
- 神奈川県糖尿病協会  
☎ 044-233-5521  
川崎市立川崎病院 糖尿病内科
- 山梨県糖尿病協会  
☎ 055-273-9602  
山梨大学医学部 第三内科
- 長野県糖尿病協会  
☎ 0263-39-7060  
米沢 光夫 様方
- 新潟県糖尿病協会  
☎ 0258-66-2140  
新潟ブルーサークル
- 中部**  
静岡県糖尿病協会  
☎ 054-247-6134  
静岡県立総合病院 栄養管理室
- 愛知県糖尿病協会  
☎ 0561-63-1682  
愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科
- 三重県糖尿病協会  
☎ 059-331-2000  
JCHO 四日市羽津医療センター

- 岐阜県糖尿病協会  
☎ 058-230-6378  
岐阜大学病院 糖尿病代謝内科
- 富山県糖尿病協会  
☎ 076-433-8843  
富山赤十字病院 医療社会事業部
- 石川県糖尿病協会  
☎ 0761-21-0965  
早戸 武志 様方
- 福井県糖尿病協会  
☎ 0776-24-2410  
医療法人初生会 福井中央クリニック 内科
- 近畿**  
滋賀県糖尿病協会  
☎ 0749-22-6050  
彦根市立病院 栄養科・栄養治療室
- 京都府糖尿病協会  
☎ 070-5267-1929  
京都府立医科大学附属病院 内分泌・免疫内科
- 大阪府糖尿病協会  
☎ 06-6879-3731  
大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 (木・金/11時~14時)
- 和歌山県糖尿病協会  
☎ 073-445-9436  
和歌山県立医科大学附属病院 第1内科医局
- 奈良県糖尿病協会  
☎ 0743-63-5611  
天理よろづ相談所病院 世話部
- 兵庫県糖尿病協会  
☎ 078-382-5868  
神戸大学大学院 医学研究科内科学講座 糖尿病・内分泌内科学部門

- 中国・四国**  
岡山県糖尿病協会  
☎ 086-235-7235  
岡山大学医学部 腎・免疫・内分泌代謝内科学教室
- 広島県糖尿病協会  
☎ 082-257-5198  
広島大学病院 分子内科学 内分泌・糖尿病内科
- 鳥取県糖尿病協会  
☎ 0859-24-1151  
住吉内科眼科クリニック
- 島根県糖尿病協会  
☎ 0852-24-2111  
松江赤十字病院 生活指導室
- 山口県糖尿病協会  
☎ 0836-22-2251  
山口大学医学部 第三内科
- 香川県糖尿病協会  
☎ 0875-52-3366  
三豊総合病院 代謝科
- 徳島県糖尿病協会  
☎ 088-633-7587  
徳島大学 糖尿病臨床・研究開発センター
- 高知県糖尿病協会  
☎ 088-880-2343  
高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科学 (第二内科)
- 愛媛県糖尿病協会  
☎ 080-5667-2786  
愛媛大学大学院医学系研究科糖尿病内科
- 九州**  
福岡県糖尿病協会  
☎ 092-631-0656  
九州大学医学部 病態機能内科学 (第2内科) 糖尿病研究室

- 大分県糖尿病協会  
☎ 097-586-5052  
大分大学医学部 看護学科
- 佐賀県糖尿病協会  
☎ 0952-34-2546  
佐賀大学医学部 看護学科棟 4F 5410室
- 長崎県糖尿病協会  
☎ 0958-25-0092  
内科大坪クリニック
- 熊本県糖尿病協会  
☎ 096-365-5414  
熊本県総合保健センター 管理棟3階
- 宮崎県糖尿病協会  
☎ 0985-22-8015  
平和台病院 1F
- 鹿児島県糖尿病協会  
☎ 099-256-1218  
鹿児島栄養会館
- 沖縄県糖尿病協会  
☎ 098-886-6955  
医療法人陽心会



## Pick up! 全国の活動レポート

**北海道**

北海道糖尿病協会では、地域糖尿病療養指導士(CDEL)養成団体の設立に対する支援策に取組みを実施した。北海道第一号団体として『釧路CDEL研究会』が設立され、27名の認定者で発足した。協会との協働体制を強化し28年度もこの活動を継続していきたい。

2015年7月に北海道糖尿病協会ホームページを開設した。糖尿病の予防治療等の喚起・情報の共有・啓発運動を推進するなどタイムリーに周知できる体制強化を図る活動に取り組んでいる。(矢戸 春治)

**岐阜**

岐阜県糖尿病協会の総会では糖尿病療養に役立つ講演を、著名なエキスパートの演者を全国よりお招きして催しています。また同時に県下各ブロックの特色を紹介できる交流会を昼食時に設けています。2015年度は地元各務原市のひびき会英傑太鼓保存会による和太鼓の演奏会を皆で鑑賞しました。秋にはウォークラリーとして澄んだ秋空の下、約5kmお昼休憩をはさみながら歩いています。

**群馬**

1型糖尿病患者さんは、2型糖尿病患者さんと比べ1人で悩んだり相談出来ず困っているケースも少なくないと考えられ、インスリンによるコントロールも2型より難しいことから、同じ病気を持つ方の体験を共有するため15歳以上の1型糖尿病患者さんの交流会を企画しました。「語ろう、低血糖!」の会に参加した患者さんが外来に見えた時、「低血糖とは、ひとそれぞれ違う事を知った」と話されました。(戸所 文生)

**島根**

島根県の日糖協加入率は人口10000人あたり22.8人で、第2位の富山県の13.9人を大きく引き離し断トツの1位です。44の友の会が組織され、全県下で活発に日糖協活動が展開されています。毎年県内持ち回りで開催される世界糖尿病デーブルーライトアップイベントを昨年は出雲大社本殿で実施し、約2000名の参加者がありました。10年前から日糖協の補助事業として始めた療養指導士研修会も5年前から島根県協会単独事業として引継ぎ、今年20回を迎え、糖尿病療養指導士育成にも貢献しています。

**愛媛**

愛媛県糖尿病協会の活動は、全県下21の友の会活動を基盤に、地域糖尿病療養指導士との協働体制を強化しつつ充実発展を進めています。会員は現在600名目前です。毎月さかえとともに糖尿病協会活動をタイムリーにお知らせする「愛糖協ニュース」は発刊から51号となりました。2015年に1型糖尿病を持つ患者と家族の会「愛DM+の会」をはじめました。成人発症の方々とキャンプOB、医療者が共に学ぶ会の発展に期待しています。(中村慶子、松岡裕美子、寺尾奈歩子)

**福岡**

当協会では、多くの県民に情報が届くように、県内を4地区に分けて各々工夫した活動を展開しています。その一つが出前講座と呼ばれ、18年目になる「糖尿病及び合併症予防のための講演会」です。各地区の医師やコメディカル等が結集し、講演会、栄養・医療相談、血糖自己測定指導、作品展示等を開催していますが、多くの方々にご参加いただき大変喜ばれています。各地区とも自治体等との連携活動が増えるなど、ネットワーク拡大も進んでいます。

# 日本糖尿病協会の会員

日本糖尿病協会には、糖尿病に関心のある方ならどなたでも入会することができます。患者さんやご家族、患者さんを支援する医療者や企業の皆さんが、日本糖尿病協会という輪の中で同じ立場で活動しています。



友の会  
会員

糖尿病診療を行う医療機関に設けてある「糖尿病友の会」に入会すると、会員として協会誌「糖尿病ライフさかえ」の購読と、友の会での交流活動に参加できます。友の会は、全国の約1,600の医療機関に設置されています。



本部  
会員

日本糖尿病協会本部に入会し、協会誌「糖尿病ライフさかえ」を購読して、糖尿病の知識を深めることを目的とする会員です。全国どこからでも入会が可能です。若い世代や医療者が多く参加しています。



上記以外にも、日本糖尿病協会の目的に賛同して、活動をご支援いただく企業・団体や個人を対象とする賛助会員制度もあります。

## 2015年度 賛助会員

アステラス製薬(株)	大正富山医薬品(株)	興和創薬(株)
(株)Hプラス B ライフサイエンス	サラヤ(株)	MSD (株)
サノフィ(株)	(株)ヤクルト本社	小野薬品工業(株)
(株)浅田	日本メトロニック(株)	サンスター(株)
(株)ファンデリー	富士フィルムファーマ(株)	アークレイ マーケティング(株)
アストラゼネカ(株)	ティーベック(株)	田辺三菱製薬(株)
(株)三和化学研究所	(株)竹内精美堂	テルモ(株)
積水メディカル(株)	日本コカ・コーラ(株)	(有)ニック
日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	味の素(株)	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
大日本住友製薬(株)	大正製薬(株)	ノボ ノルディスク ファーマ(株)
第一三共(株)	法円坂メディカル(株)	日本イーライリリー(株)
日本ベクトン・ディッキンソン(株)	ニプロ(株)	
ロシュ・ダイアグノスティクス(株)	松谷化学工業(株)	



日本糖尿病協会は「子どもの糖尿病対策」と「アジアの糖尿病対策」を応援して下さる「サポーター」を募集しています。あなたの周りの人にサポーターのことをお伝えください。ひとりひとりの小さな支援が、大きな糖尿病対策につながります。

アジア地域での糖尿病による  
足切断は極めて深刻です！

### アジアの糖尿病対策 アジア糖尿病足病変プロジェクト

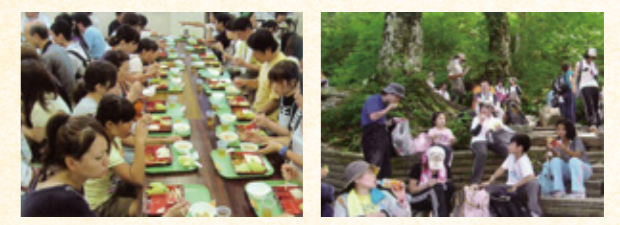
- 発展途上国にフットケアセンターを設置
- IDF-WPR (国際糖尿病連合西太平洋地区) によるフットケア施設認定
- 医療スタッフの教育の実施
- 2012年2月～ フットケアに関する国際シンポジウム開催



1型糖尿病の子どもたちの  
教育と生活指導のために…

### 子どもの糖尿病対策 小児糖尿病サマーキャンプ

- 日本で最初のキャンプ「つぼみの会」
- 1963年 8月 千葉県勝山海岸で開催  
7泊8日の日程で、8人の患児(6~12歳)が参加しました。
- 現在では… 2015年 全国50箇所で開催  
約1200人のキャンパー(患児)と約4000人の医療スタッフ(ボランティア)が参加。



## サポーター募集中!!

**サポーター会費は 500円 (5年間分)**  
会費500円(5年間分)で、お一人様何口でもお申込みいただけます。

■ご登録に必要なもの：①お名前 ②メールアドレス ③会費

■ご登録後の特典：①サポーター証 ②日本糖尿病協会からの健康情報メール配信

※「友の会」正会員の各種特典(月刊「糖尿病ライフさかえ」無料購読、「DM Ensemble」購読割引)の適用はございません。また、地域糖尿病療養指導士取得の要件にある日本糖尿病協会会員にも該当いたしません。あらかじめご了承ください。

会費は、小児糖尿病サマーキャンプとアジア地域の糖尿病対策支援に役立てられます。詳しくは、日本糖尿病協会のホームページでご案内しています。

# 2016(平成28)年度 日本糖尿病協会賞受賞者

日本糖尿病協会では、毎年、協会活動を通じて日本の糖尿病対策に貢献された方々を表彰しています。

今年度の日本糖尿病協会賞受賞者は、以下のみなさまとなります。

受賞者の功績については、ホームページでご紹介いたしますので、そちらもぜひご覧ください。

## アレテウス賞

日本の糖尿病対策に多大な役割を果たすとともに、日本糖尿病協会事業の推進に顕著な貢献がある患者、または国内外における糖尿病医療への学術的貢献が顕著であり、かつ教育や患者会活動を通じた糖尿病治療や療養指導への貢献が著しい医療従事者へ贈られます。



内湯 安子氏

東京女子医科大学 糖尿病センター長  
(受賞理由)1型糖尿病医療や患者教育に関する貢献

## パラメデス賞

原則50歳未満の比較的若手で日本糖尿病協会事業を積極的に推進している患者へ贈られます。



南昌江氏

南昌江内科クリニック 院長  
(受賞理由)1型糖尿病の社会啓発に関する貢献

## ウイリアム・カレン賞

原則50歳未満の比較的若手で日本糖尿病協会事業を積極的に推進している医療従事者に贈られます。



赤司 朋之氏

嶋田病院 内科部長  
(受賞理由)医科歯科連携等、地域医療への貢献

## 功労賞

日本糖尿病協会事業の推進、地域組織の強化、会員増強など長年にわたり多大な功績を残した患者・医療従事者へ贈られます。



古田 恒雄氏

熊本県糖尿病協会 前会長  
(受賞理由)熊本県支部活性化と日糖協活動への貢献

## 立川俱子賞

日本糖尿病協会の会員として、日糖協本部または都道府県糖尿病協会において糖尿病の啓発、療養支援、友の会活動などにしなやかな力を発揮する女性に贈られます。



中村 慶子氏

愛媛大学 名誉教授  
横浜創英大学大学院看護学研究科 実践看護学分野 教授  
(受賞理由)小児糖尿病サマーキャンプを通じた療養指導への貢献

## 小児糖尿病関連賞受賞者

### ガリクソン賞

小児期発症の1型糖尿病の患者さんで、一般社会、スポーツ、文化、科学、芸術などで活躍する方、キャンブスタッフとしての貢献の著しい方に贈られます。



星野 香織氏

利根中央病院 看護師  
(関東甲信越ブロック推薦)

### 小児糖尿病功労賞

サマーキャンプの運営、小児糖尿病の医療等に対し、原則として10年以上貢献のあった方に贈られます。



藤澤 隆夫氏

三重病院 院長  
(中部ブロック推薦)



大西 泰憲氏

香川労働基準協会 健診部 所長  
(中国・四国ブロック推薦)



桶田 俊光氏

赤坂おけだ糖尿病内科院長  
(九州ブロック推薦)



栗林 忠信氏

古賀総合病院 院長  
(九州ブロック推薦)

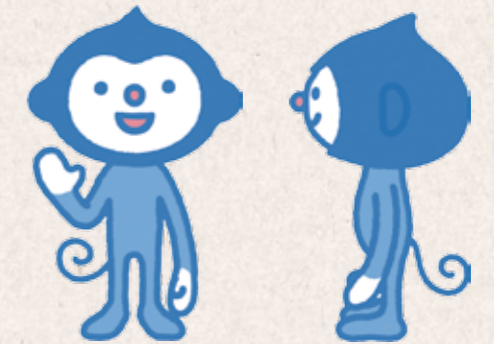


日本糖尿病協会

最新NEWS

## NEWS 1 | マスコットキャラクターが誕生しました!

本糖尿病協会のキャラクターの一般公募を行い、合計201もの応募作が集まりました。厳正な審査の結果、「マールくん」がマスコットキャラクターに決定しました。「マールくん」は、広島県廿日市市の岡本麗子さんによる作品で『患者さんや家族を丸く包み、みんなのつながりを広げる』という思いが込められています。「マールくん」は今後さまざまな場で活躍しますので、どうぞご期待ください。



## NEWS 2 | 医療スタッフのみなさまへ 糖尿病療養指導カードキットをご活用ください。



病 状や生活環境がひとりひとり異なる糖尿病患者さんに、最適な療養指導プランが効率的に組めるカードキットが誕生しました。79種類のカードの中から、患者さんに適した指導項目をカスタマイズ、指導箋がウェブサイトからプリントアウトできます。またカード裏面のQRコードでスマートフォンから指導箋を読み取ることもできます。

## NEWS 3 | 医療スタッフのみなさまへ 「療養指導に役立つDVDシリーズ」好評配布中

本糖尿病協会では療養指導者向けDVDシリーズを制作して医療スタッフにご活用いただいています。

「運動療法のすすめ」全4巻は、糖尿病教室で患者さんと一緒に視聴して運動療法の指導が実践できる参加型DVDで、ビデオを見ながら実際に体を動かし、運動の大切さを患者さんに伝えることができます。すでに全巻が完成し、全国の医療施設に配布されています。

「チームで考える!糖尿病療養指導のポイント」5巻シリーズは、糖尿病診療に携わる医療者を視聴対象とし、患者さんに対する療養指導や支援の方法を学び、映像を見てチームで意見交換することを目的に作られました。第1巻「支援・面談の基本編」が完成し、今後、半年に1巻のペースで制作する予定です。



大正富山医薬品(株) 協賛

アステラス製薬(株) 協賛

第4回



# 日本糖尿病療養指導 学術集会



**チーム力 Up!**  
自分にできること  
自分にしかできないこと

会期：平成28年7月23日(土)  
24日(日)

会場：国立京都国際会館

会長：南條 輝志男 (和歌山ろうさい病院  
病院長)

事前参加登録制

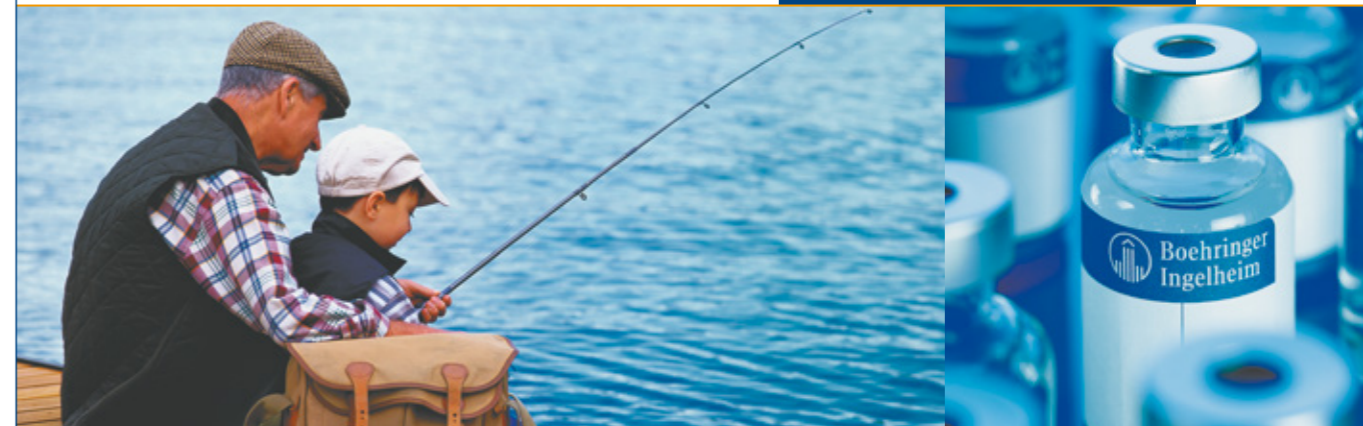
お申込みは、日本糖尿病協会のホームページから

[www.nittokyo.or.jp](http://www.nittokyo.or.jp)

主催／公益社団法人日本糖尿病協会

Illustrated by Freepik.com

Value through Innovation



## 人々のより良い健康のために

ベーリンガーインゲルハイムは、株式を公開しない企業形態の特色を生かし、長期的な視点で、医薬品の研究開発、製造、販売を中心に事業を世界に展開している製薬企業です。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

本社／〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower  
<http://www.boehringer-ingenelheim.co.jp>



## 認知症。ずっと、もっと、自分らしく。



認知症治療は早期発見がポイントです。  
認知症かな?と思ったら、

スマートフォンでもご覧いただけます



第一三共株式会社

changing diabetes®  
～糖尿病を克服する～



## 糖尿病患者さんの より良い生活のために

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル  
電話(03)6266-1000(代表) FAX(03)6266-1800  
www.novonordisk.co.jp



club-dm.jp

糖尿病サイト [www.club-dm.jp](http://www.club-dm.jp)

糖尿病について徹底解説。  
血糖値・HbA1cからインスリン  
治療まで、関連する内容が満載!

糖尿病サイト 検索



1459230101 (2016年4月作成)

「チーム ノボ ノルディスク」  
チーム全員が1型糖尿病患者で構成されるプロサイクリングチーム



サノフィは、グローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーとして  
患者さんのニーズにフォーカスしています。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー [www.sanofi.co.jp](http://www.sanofi.co.jp)



© Elle Bernager / Stone / Getty Image

arkray

# 夢をかなえよう、共に。

夢と勇気を与えることで、1型糖尿病の  
子どもたちを応援している岩田選手。  
私たちも、岩田選手を応援しています。

岩田選手×アークレイ

### IWATA PROJECT 21

詳しくは、Facebook、オフィシャルサイトまで

岩田 アークレイ 検索



アークレイ株式会社

Better Health, Brighter Future



タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から治療・治癒にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

[www.takeda.co.jp](http://www.takeda.co.jp)

武田薬品工業株式会社



## 世界中の人々に寄り添う

Caring for the world, one person at a time inspires and unites the people of **Johnson & Johnson**

これが私たちジョンソン・エンド・ジョンソン ファミリーカンパニーの原点です  
革新的な製品やサービスを提供し、医師や看護師とともに  
世界中の何十億もの人々の生活に日々関わっています  
125年以上の歴史を超えて「我が信条 (Our Credo)」のもと  
これからも一人ひとりに寄り添い皆さまの健康に貢献していきます

**Johnson & Johnson** ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカル カンパニー  
JOHNSON & JOHNSON K.K. MEDICAL COMPANY 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 [www.jnj.co.jp](http://www.jnj.co.jp)  
© J&J 2014-2016 LSM351-01-201604

## 健康寿命の延伸に 貢献していきたい。

大正製薬グループの医療用医薬品部門を担い、  
皆様の健康な暮らしの実現を目指す私たち。  
感染症、炎症・免疫、代謝性疾患の領域を中心に、  
さまざまなメディカルニーズにお応えしていきます。  
皆様の信頼と期待をいただきながら  
私たちは挑み続けます。



大正製薬グループ  
**大正富山医薬品株式会社**  
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1  
<http://www.taishotoyama.co.jp/>

TTPA44C 2014年8月作成

**ゴールを目指す  
気持ちは一つ  
糖尿病に立ち向かいます**

私たちは、薬物治療にとどまらず、  
食事療法や運動療法など、  
糖尿病治療全般に関わる情報提供を、  
積極的に行ってきました。  
今後もさらに、多角的なアプローチで、  
ソリューションを提供いたします。  
糖尿病領域における  
真のパートナーを目指して——  
これまでも、これからも、  
MSDはチャレンジしつづけます。

**MSD Diabetes Solutions™**

**MSD株式会社**  
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア  
<http://www.msdd.co.jp/>

2014年11月作成  
JAN14AD476-1116



## 公益社団法人 日本糖尿病協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 麹町セントラルビル8F  
TEL:03-3514-1721 FAX:03-3514-1725

日本糖尿病協会について、詳しくはホームページをご覧ください。  
「友の会」や「サポーター会員」についてもご案内しています。

<http://www.nittokyo.or.jp/>